

# PRESS RELEASE

2019年（平成31年）2月15日

報道関係者 各位  
飼料用米に関する事業者の皆様 各位  
消費者の皆様 各位  
行政、学者、研究者、学生 各位

一般社団法人 日本飼料用米振興協会 (J-FRA ジャフラ)

東京都中野区弥生町一丁目17番3号 〒164-0013

<http://www.j-fra.or.jp/>

[postmaster@j-fra.or.jp](mailto:postmaster@j-fra.or.jp)

理事長 海老澤恵子（中野区消費者団体連絡会 副会長）  
副理事長 加藤好一（生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 会長）  
理事・事務局長 若狭良治（NPO未来舎 副理事長）  
理事 木村友二郎（木徳神糧株式会社 顧問）  
理事 信岡誠治（有識者：元東京農業大学農学部 畜産学科 教授）  
理事 阿部健太郎（昭和産業株式会社 畜産飼料部 部長）  
理事 遠藤雄士（全国農業協同組合連合会 耕種総合対策部 飼料用米対策課 課長）  
理事 谷井勇二（有識者：元全国農業協同組合連合会 職員）  
監事 岩野千草（中野区消費者団体連絡会 事務局）

## 問い合わせ先

理事長 海老澤恵子 070-5543-1448 ebisawa\_keiko@j-fra.or.jp  
理事・事務局長 若狭良治 070-3522-3151 wakasa\_ryoji@j-fra.or.jp

一般社団法人 日本飼料用米振興協会 (j-fra) は、今年（2019年）3月15日（金）に、「**飼料用米を活かす日本型循環畜産推進交流集会 飼料用米多収日本一・飼料用米活用畜産物ブランド日本一表彰式～飼料用米普及のためのシンポジウム2019～**」を開催する。

会場は、東京大学弥生講堂（一条ホール・会議室）（東京都文京区弥生1-1-1 弥生キャンパス）  
（参加費無料）。

ホームページ（上記）で参加者募集を行っている。締め切りは3月13日（水）

（定員：280名に達した場合は締め切り）

10時30分開場、11時～17時にシンポジウムを開催する。

12時～12時55分の間、弥生講堂ロビーで資料展示、会議室で試食会を行う。試食会では飼料用米育ちの畜産物を提供する。

このシンポジウムでは、飼料用米が50万トン弱の生産になったことを踏まえ、一層の飼料用米の普及を目指し、耕（作）畜（産）消（費）の連携を図りながら、国産飼料用米による給餌を推進することにより、コメ育ちの畜産物（牛肉・牛乳・豚肉・鶏肉・鶏卵およびその派生商品）の普及やブランド化と流通、消費を促進するための事例紹介を行う。今後の課題を明らかにして改善を図ることにより飼料用米の振興を図り、食料自給率の向上を目指す。



当日は、日本飼料用米振興協会が主催する農業・畜産関連団体、物流・流通事業者、流通・購入消費に関わる団体、個人及び研究者による普及交流集会である「飼料用米普及のためのシンポジウム2019」と、日本飼料用米振興協会及び農林水産省が共催する「飼料用米多収日本一」および一般社団法人日本養豚協会が主催する「飼料用米活用畜産物ブランド日本一」の表彰式も同時に開催する。

本協会は、2008年（平成20年）に穀物価格が高騰した、いわゆる「畜産・大パニック！」の際に、国内の畜産農業を守り、食料自給率の向上などを目的に開催された「学習会」を起点に組織された「超多収穫米普及連絡会」が活動の原点となる。

その後、飼料用米の普及や、日本型循環畜産と農業・流通・消費の連携などを目指して活動してきた7年間の活動実績を踏まえて、2014年（平成26年）4月に更なる飼料用米推進のため、組織の一般社団法人化を実現した。

これまでのシンポジウムの開催は次のとおりである。

◆2015年3月20日（金）＜東京大学 農学一号館＞

法人化第1回（通算8回目）の「飼料用米を活かす日本型循環畜産推進交流集会～飼料用米普及のためのシンポジウム2015～」

◆2016年3月11日（金）＜東京大学 農学一号館＞

法人化第2回（通算9回目）の「飼料用米を活かす日本型循環畜産推進交流集会～飼料用米普及のためのシンポジウム2016～」

◆2017年3月15日（金）＜東京大学 弥生講堂一条ホール＞

法人化第3回（通算10回目）の「飼料用米を活かす日本型循環畜産推進交流集会 飼料用米多収日本一表彰式 ～飼料用米普及のためのシンポジウム2017～」

◆2018年3月9日（金）＜東京大学 弥生講堂一条ホール＞

法人化第4回（通算11回目）の「飼料用米を活かす日本型循環畜産推進交流集会 飼料用米多収日本一・飼料用米活用畜産物ブランド日本一表彰式 ～飼料用米普及のためのシンポジウム2018～」

本シンポジウムでは、従来「飼料用米の利点、給餌された家畜（鶏卵、鶏肉、牛肉、牛乳、豚肉）などの食味の改善などの成果を強調し、飼料用米の普及促進をしてきたが、国内外の様々な経済的変動、畜産・農業環境の大きな変化を背景に、食料自給率の向上が大きな課題となってきていることを受けて、食料自給率を巡る話題や特に米国における農産物に対する助成金の実態など国際的な農産物の安全保障上の問題点等を新たに掘り下げているところ。

また、2016年より3回にわたり、「コメ政策と飼料用米の今後に関する意見交換会」を開催（第1回 2016年11月1日、第2回 2017年11月15日、第3回 2018年11月28日）し、農林水産省や飼料用米に係る関係者による情報交換を積極的に進めている。

本シンポジウムでは、業界関係者等が飼料用米の生産、物流、保管コストの低減化を検討した成果や工夫などを報告する。

本年も昨年に引き続き、以下のような三部構成となる。

第一部：シンポジウム2019（前半）

第二部：表彰式

第三部：シンポジウム2019（後半）

なお「飼料用米多収日本一」および「飼料用米活用畜産物ブランド日本一」表彰事業については、2月



にそれぞれ審査会を実施し、審査結果は別途報道発表を行う予定。

シンポジウム会場で当日の講演・報告者・表彰式の資料等を配布するが、配付後に変更が生じる場合があるため、最終資料は当協会ホームページに掲載する予定。

シンポジウム終了後、17:30 から農学3号館地下の農学部食堂（東京大学消費生協）で交流懇親会を開催する（希望者のみ、料金は3,500円。ただし報道関係者は、参加者申込書に報道関係者と記載のこと）。

◆開催要領

第5回（通算第12回）

飼料用米を活かす日本型循環畜産推進交流集会

飼料用米多収日本一・飼料用米活用畜産物ブランド日本一表彰式、

**飼料用米普及のためのシンポジウム2019**

開催会場：東京大学 弥生講堂（一条ホール）（東京都文京区弥生1-1-1）

シンポジウム・表彰式：一条ホール、資料展示会：ロビー、試食会：会議室

開催日時：

2019年（平成31年）3月15日（金）

10:30 開場 11:00 開会 ～17:00 閉会

参加対象：

生産者および生産団体、米穀流通事業者、飼料事業者、流通・物流事業者、消費者団体等、研究者、学生等

開催内容（敬称略）

11:00～11:05 主催者挨拶 （一社）日本飼料用米振興協会 理事長 海老澤 恵子

11:05～11:15 挨拶 日本生活協同組合連合会 常務理事 藤井 喜継

11:15～11:20 挨拶 農林水産省政策統括官付穀物課長 堺田 輝也

11:20～11:55 基調講演「飼料用米の推進について」（仮題）  
農林水産省生産局畜産部飼料課長 犬飼 史郎

12:00～12:55 休憩（各自／自由行動）

※ この時間帯を利用して資料展示や試食を行う。

資料展示：ロビー 試食会：会議室

試食会では、飼料用米を給与した豚肉のシャブシャブや

鶏卵を利用したスイーツなどを用意した。

なお、ホールでの飲食は禁止されている。

13:00～14:10 表彰式

挨拶 農林水産大臣（予定）

◆飼料用米多収日本一表彰式

受賞者代表挨拶（飼料用米多収日本一）

記念撮影

◆飼料用畜産物活用ブランド日本一表彰式

挨拶 一般社団法人日本養豚協会 会長 香川 雅彦

受賞者代表挨拶（飼料用米活用畜産物ブランド日本一）

記念撮影



- 14:10～14:30 休憩  
14:30～14:55 活動報告 (有) 鈴木養鶏場 (大分県) 代表取締役会長 鈴木 明久  
「飼料用米を取り扱って10年、今後に期待する！」  
14:55～15:20 活動報告 農事組合法人菖蒲谷牧場 (岐阜県) 代表 山川 忠一郎  
「地元の飼料用米で養豚の6次産業を目指す」  
15:20～15:45 活動報告 昭和鶏卵株式会社 代表取締役社長 不破 恒昭  
「飼料用米を使用した鶏卵の販売普及拡大について」  
15:45～16:15 講演 (一社) 日本協同組合連携機構 (JCA) 常務理事 青竹 豊  
「協同組合間連携の取り組みについて～生産者から消費者まで～」  
16:15～16:40 総括質疑応答  
16:40～16:50 閉会挨拶 (一社) 日本飼料用米振興協会 副理事長 加藤 好一  
(生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 会長)  
16:50 閉会

意見交換交流会 (懇親会) (17:30～19:00)

会場：東京大学消費生活協同組合 農学部食堂 (農学3号館地階)

参加費：3,500円 (希望者のみ)

#### ◆飼料用米普及のためのシンポジウム2019を進めるにあたっての協会としての想い

本シンポジウムは、研究から事業、消費に至る飼料用米の一貫した様々な取り組みを理解いただく「集いの場」として企画した。

多くの消費者、主婦をはじめ、配合飼料メーカー、物流事業者、保管事業者、農業協同組合、農事法人、農家、研究者、学生などの方々が理解しやすい、日本における水田のフル活用、飼料用米の利活用について皆様と考え、交流する場としている。ふるって参加していただきたい。

以上

<J-FRA>\*\*\*\*\*

一般社団法人 日本飼料用米振興協会 運営事務局

Japan Feed Rice Association (j-fra)

executive secretariat

URL : <http://j-fra.or.jp/>

Mail : [postmaster@j-fra.or.jp](mailto:postmaster@j-fra.or.jp)

事務所：東京都中野区弥生町1丁目17番3号

Phone : 070-5543-1448 (理事長 海老澤恵子)

\*\*\*\*\*

事務局

Phone : 070-3522-3151 (若狭 良治)

Mail : [wakasa\\_ryoji@j-fra.or.jp](mailto:wakasa_ryoji@j-fra.or.jp)

